



一生懸命の大切さ

校長 岩田 明正

雲一つない青空、まさに秋晴れの元、10月23日(土)に第35回運動会が行われました。前日の雨で校庭はぬかるんでいた状態でしたが、なんとかこの日に行きたいと、朝早くから教職員が整備を行い、無事開催へとこぎつけることができました。

10月4日から分散登校が解除され、平常の登校になってから急ピッチで運動会に向けての準備や、練習が行われました。先生方も子どもたちも大忙しの中、変則的な形でしたが、運動会を行うことができたことは本当にうれしいことです。しかも、この日は児童の欠席が0人！これも子どもたちの行事への意欲、そして保護者の方々のご協力があってこそそのこととあらためて感謝申し上げます。観覧に際しましては、人数制限や場所の指定により窮屈な思いをされた方も多かったと思います。また、地域の方々には参加をご遠慮していただきました。紙面上ではございますがお詫び申し上げます。早く、そのような制限もなく、行事が開催されることを願うばかりです。

さて、今回の運動会の様子を見て強く感じたことは、「一生懸命」の大切さです。当日の競技や演技へ参加する子どもたちの真剣な顔から、一生懸命さはもちろん伝わってきたのですが、その真剣さは運動会に至るまでの熱のこもった練習からひしひしと感じることができました。私が特に感動したのが低、中、高学年で行う演技(ダンス)への取組です。今回の準備は難しかったと思います。練習時間も少なく、そしてどの演技も動きが複雑(少なくとも私にとっては…)だからです。

個々の動きは分散登校時でもタブレット等を活用して確認はできますが、やはり全員が合わせて練習をしないと実際の動きがわかりません。それらの難しさを子どもたちは教職員の指導の元、一人ひとりが真剣に取り組み、見事に乗り越えました。家で練習してきたという子どもたちも大勢いました。その成果として、低学年の「ええじゃないか」で幸せな気分になり、中学年の「おどろタッタ」で完成度の高さに感心し、高学年の「舞ソーラン」の学校を引っ張っていく迫力に感動することができ、幸せな時間を堪能できました。

この何事にも一生懸命に取り組む姿勢を全員がもつことができたことが、この運動会の一番の成功だと思います。もちろん、いつも一生懸命さが、それに見合った成果につながるには限りません。しかし、自分が行うべきことを、一つひとつのことに一生懸命に取り組もうとする考え方、姿勢こそが、今後いかなる困難や課題にぶつかったとしても、それに屈することなく進んでいける大きな力になるはずです。

「秋の大収穫祭～全力の実 団結の実 楽し実～」というスローガンが掲げられた今回の運動会。そのスローガン通り、収穫できたものはとても多かったと思います。

第35回 運動会 各ブロックの様子

どの学年も元気いっぱい走って踊って応援した一日でした。

低学年ブロック「おまつりワッショイ！ええじゃないか」

「大きな動きをしたい。」「止めるところは、しっかり止める。」「きびきび踊りたい。」など毎時間、自分のめあてをもって練習を重ねてきました。運動会当日は、これまでの練習の成果を発揮し、運動量の多いダンスでしたが、お祭り気分楽しく踊ることができました。また、練習中は、クラスごとや学年ごとに動きを見合い、友だちの動きの良いところや真似していきいたいことなどを、言葉やお手紙で伝え合ってきました。運動会を通して一緒に活動したり、交流を深められたりしたことを、今後の学習や遠足などの行事につなげていきたいと思えます。



中学年ブロック「リズムにのって おどっタッタ」

全編オリジナルの振り付けで臨んだ演技。複雑なステップに「どうやるのだろう？」と悩む子もいる中、友達同士で教え合ったり、4年生が3年生に教えてくれたりすることで上手に踊れるようになりました。「そろえるところをそろえたい。」「最後はみんなの笑顔を見せたい！」「お客さんを応援する気持ちで踊りたい！」と自分たちでめあてをもって高め合う姿が見られました。3・4年生でお互いにより刺激を受け合い、また一つよい集団に向けて成長できました。



高学年ブロック「舞岡魂 舞ソーラン！」

舞岡小の伝統を引き継いで、今年もソーラン節を披露しました。6年生のソーラン節実行委員が中心となって毎回の練習後に、「声が大きく出ていてよかったです。」や「隊形移動をした後は、列をそろえましょう。」など、成果や課題を伝えることで完成度を高めてきました。また、一つひとつの踊りに込められた意味を考えながら、力強く表現できるように日々練習を重ねました。



隊形が変わったり、様々な方向を向きながら踊ったりすることで、どの角度から見ても楽しめる、迫力ある演技となりました。

全国学習状況調査の結果報告

5月27日（木）に6年生が実施いたしました全国学力学習状況調査の結果についてご報告いたします。

①教科に関する調査（国語・算数）の平均正答率（％）

内容・領域	国語			算数				
	話す・聞く	書く	読む	式と計算	図形	測定	変化と関係	データ活用
舞岡小	79.9	64.6	48.6	69.3	59.7	80.6	77.8	82.9
神奈川県	78.9	58.3	48.7	62.2	57.3	74.7	76.6	77.1
全国	77.8	60.7	47.2	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0

国語・算数ともに、ほとんどの内容・領域で全国・神奈川県の平均正答率よりも高くなっています。国語では「書く」内容の正答率が高く、目的や意図に応じて書き表し方を工夫しながら、自分の考えを主張する文章を書くことができています。算数では、「式と計算」「データ活用」領域の正答率が高く、問題の求め方や式を、言葉を用いて記述したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることができています。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の回答率（％）

あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。→「ほぼ毎日」または「週1回以上」の回答率	舞岡小	60.5
	全国	39
学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。→「役に立つと思う」の回答率	舞岡小	72.9
	全国	66.1

学校で、iPadを含むICT機器を有効的に学習に取り入れられていることが分かります。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」の質問に対しても、「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した児童が85.4%で、全国の70.1%を上回っています。今後も、学校とご家庭が連携し合い、安全にICT機器の活用が進められればと思います。

専任より ～11月は、マイルールの振り返り月間です～

マイルールは、毎年少しずつリニューアルされています。年度末に、今年身についた力、気になるところなど話し合いをして、皆が納得し、安心安全に過ごすためのルールやマナーを決めています。

「持ち物の約束」という項目に、上履きの甲とかかとの部分に名前を書きますとあります。これは、ルールというよりは、お願いに近いです。具合が悪かったり、泣いたり困ったりしている児童がいたときに、さっと上履きを見て名前を確認することがあります。本当は347人の児童の名前をいつでも言えるようにしたいですが、なかなか難しいです。でも、名前を呼んで、子どもに温かく接したい思いがあります。持ち物管理とは別の理由もありますので、是非ご協力ください。また、「おうちの方へのお願い」の⑥家の都合で別のコースで帰るときは、連絡帳に書いて担任に知らせてくださいとありますが、習い事や遊びを想定したものではありませんので、ご了承ください。